

## 大分友の会子どもへの働きかけの歴史

1930年全国友の会が1000人の会員で創立された翌年、大分にも、安東ヒデさんを中心に婦人之友の愛読者の集まりが出来ました。1933年4月（昭和8年）8人で大分友の会を創立。昭和14年から終戦の20年までの記録はありませんが、戦後21年、記録は復活、大分友の会員13人と出てきます。

私は、1970年（S45）転勤で名古屋友の会から、大分へ参りました。大分会員数は86人でした。名古屋友の会で3年を過ぎていた私は、3歳の長男を連れて、駅前の朝日生命ビルの会議室で持たれる例会に出席しました。例会託児が無いことに戸惑いました。その後も大分新産都ということで転勤者が多く、翌年には会員数が115人となり、子どもの数も増え、その年から乳幼児グループが誕生、例会託児も始まりました。乳幼児グループは年11回、「家庭教育篇」の上を読書、翌年には「みどりごの心」を読書、会員宅持ち回りの集まりも限界となりましたが幸いにも、中島の大分バプテスト教会をお借りすることが出来、月一度の乳幼児グループを継続することが出来ました。

昭和50年の例会託児は、16名と情勢報告に出ています。51年には、「乳幼児を持つ母の集まり」と名前を変え、先ず母が学ぶ大切さを一層判り合いました。その年には、自由学園、婦人之友社から、渡辺先生、中村先生を迎えて「子供服勉強会」を大勢のお客様の参加のもとトキハデパートで開くことが出来ました。その後、乳幼児を持つ母のグループでは、毎年のように、「生活習慣を大切に」「子どもの二日間の食事調べ」「おやつについてのアンケート」「生活と食べたもの調べ」などの励み表を出して、勉強をしていました。59年には西田さんを招いて「幼児の食事を大切に」の講習会開催、会員数は、大分友の会最大の131人になっていました。

しかし、翌60年には、乳幼児母のグループのリーダーになる人がなく、もう廃部との声も出ましたが若い人たちの声で、自主的に始めることになったと記録にあります。62年にも、リーダーの受け手がなく、最寄に戻しましたが、子どもの数が増えて最寄で継続的な勉強をすることが難しくなり、翌63年には、グループを再開することが出来ました。

翌1989年（平成元年）には、中古ながら、この地に、友の家が与えら、全国友の会の公共費から頂いた祝い金でプレハブを購入、中古の家の隣りに建て、託児、子どもの部屋が出来たことはとてもうれしいことでした。そして、この中古の友の家で、夏休み子ども友の会、冬休み子ども友の会クリスマス会がお母さんたちの企画で行われました。今も活躍しているステンドグラスを当時のお母さんたちが協力して作りました。1999年、久住にログハウスを建てて帰ってこられた山田さんのご協力、夏休み子ども友の会を開かせて頂け今もお世話になっています。この年の子どもの数は、乳幼児12人、小学生40人と記録されています。

2000年、全国友の会創立70年記念の捧げ物として、大分友の会は「最も自然な生活」生活展を二日間駅前のレインボービルで開きました。全員で、子どもの生活を著作集から学びんだことが忘れられません。

2003年には何度も話し合ってきた友の家の改築が成り（5/9竣工式、6/20～21とオープンハウス）2階には広々とした託児室や子ども手洗い、トイレが完成しました。

2006年、試行錯誤のなか、子どもを持つ母の願いから子ども会が発足。2007年には母が友の家で著作集から思いや生活を学ぶのと同じ、子どもも、友の家で「自分のことは自分で、丁寧な生活、生活リズムを整える」ことを学ぶ、子ども友の会と名前を変え、今日に至っています。

急激な社会の変化もあり、会員数も減りました。土曜日開催の子ども友の会も、出席する子どもの数が、1名2名ということもありそれでも続ける意味があるのかとの迷いもありました。今、全国友の会創立80年に向けて、友の会の使命を思う時、『若い家庭に働きかける、子どもに直接働きかける』ことが一番大切と分かり合いました。もっと積極的に外部の人を誘いましょう。友の家を会員の学びの場だけでは無く、もっと多くの人の学びの場にとの願いのもと、子ども達にも、会員にも、お客様を誘いましょうと呼び掛けています。まだまだ、お母さんも小学生も外部からの参加者は少ないですが、子ども達の感じた良い生活が、家庭に帰った時に、お父さん、お母さんに良い刺激となって伝わり、若い家庭の生活が変わるまで、私たち会員は、若い者も、経験を積んだ者も、良き刺激を与え続ける人になりたいと、思います。

どの年も、精一杯考え、活動してきた大分友の会の子どもの係わりの歴史を友の会80年を前にして振り返ることが出来たことも感謝です。友の会の子ども、地域の子ども、世界の子ども、の区別無く、次代を背負う子どもたちに、羽仁先生の願われた「生活即教育」の大切さを伝え続けていける大分友の会でありたいと思います。